

エルネスト・アンセルメの音楽美学における解釈と身体
——現象学的身体論としてのアンセルメの音楽美学——
船木理悠

エルネスト・アンセルメ Ernest Ansermet (1883～1969) は、著作『人間の意識における音楽の諸基礎 (*Les fondements de la musique dans la conscience humaine*, 1961)』で、音楽に関する現象学的理論を展開し、人間の意識の観点から音楽の説明には音楽的対数が必要と主張し、また、著名な指揮者であるアンセルメは著作の中で演奏者による解釈にも言及している。だが、先行研究は対数に関する議論に注目し、「解釈」の問題をほとんど扱っていない。

それ故、本稿は「テキストを「解釈すること」《interpréter》が[中略]必要だ」(*Ibid.*, t. II, 149)という主張に着目し、解釈の必要性についてのアンセルメの思索を考察する。

そのため、議論の前提として、まず、アンセルメの現象学的視点と彼の美学の主要概念である「カダンス」について確認し、これが人間の意識現象を説明するために用いられていることを示す。第二に、アンセルメにとって、解釈とはテキストの中で諸々のカダンスを捉えることであり、これらカダンスがテンポの質を規定するとされることを示す。

また、アンセルメの理論ではこれらカダンスが呼吸や脈拍といった身体的なものに規定されることから、本稿はアンセルメ美学における身体の役割を考察する。これにより、アンセルメの理論では、身体はそのカダンスの反復によって音楽的持続を測定する役割を持ち、また、「我々の現存的時間性 *notre temporalité existentielle*」(*Ibid.* t. II, 133) は身体的カダンスの反復によって成立するとされることが明らかになる。以上から、アンセルメは身体と時間の関係に関する現象学的観点に基づいて解釈の必要性を主張したと結論し、身体との関係で演奏を論じる可能性を持つ理論としてアンセルメ美学を提示する。